

クラス	310	担当教員	矢崎 裕美子
テーマ	キャリアや選択についての理解		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】「学校におけるキャリア教育」『学校で役立つ社会心理学』吉田俊和, 三島浩路, 元吉忠寛 編著 ナカニシヤ出版 (2013) 第17章</p> <p>【論文】「社会人における境遇活用スキルとストレスへの対処行動および適応感との関連」キャリア教育研究 (2023) / 「就職活動中の情報探索行動および入社前研修が内定獲得後の就職不安低減に及ぼす効果」実験社会心理学研究 (2014)</p> <p>【研究課題】社会生活 (主に働くこと) の適応に必要なスキルやパースペクティブ (見通し), 日常生活における様々な選択 など</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード: キャリア、働くこと、選択			
<p><b>目的</b> 本ゼミでは、キャリア (就職活動、進路・キャリア発達全般も含む) や日常生活における選択の理解を通し、我々の社会生活への理解を深めることを目的とします。</p> <p><b>学習目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① キャリア、働くことや選択について興味を持ち、関連する書籍や論文を理解する。</li> <li>② 研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いてデータを収集し、それをまとめる過程を体験、理解する。</li> <li>③ 収集したデータを適切な手法を用いて分析を行い、結果を理解する。</li> <li>④ ゼミ内で発表や議論を積極的に行う。</li> <li>④ ①～④を通し、我々の社会生活や今後のキャリアについて更に考える。</li> </ol> <p><b>内容と方法</b> 「キャリア」は「個々の経験の積み重ね」を意味します。進路や仕事为中心的なトピックですが、「積み重ね」は仕事以外の日常生活にも関わります。担当教員は就職活動を中心とした「大学から社会への移行」および社会人のスキルや適応に興味を持ち研究を行ってききましたが、最近では日常生活における様々な“選択” そのものにも興味があります。 研究方法は、質問紙調査を中心に、面接、実験、観察など、テーマに適した方法を検討します。</p> <p><b>授業計画</b> 3年次 前半では関連する社会問題の検討やテーマに沿った書籍や論文の輪読をします。近年ではゼミ生同士のコミュニケーションゲームも行っています。後半にはグループ研究や研究発表を行います。また、卒業論文のテーマを絞り、必要に応じて予備的調査を行います。 4年次 前半では、卒業論文のテーマに沿って個別に具体的な研究計画を立て、適切な方法でデータを収集します。後半にはデータを分析し、卒業論文を完成させます。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>・卒業論文への取り組み、すなわち問題を立て、方法を検討し、結果を分析し、考察するといったプロセスを全て自分自身で行うことは、大学生活できちんと心理学を学んだ、と思える経験につながると思います。3年後期～4年前期は、就職希望の人は就職活動にエネルギーが割かれる時期でもあります。就職活動も含め、研究プロセスを、他のゼミ生、教員と共に議論しながら楽しんで (ときにしんどい思いをしながら) いければと考えています。</p> <p>・&lt;このような人を歓迎します&gt; (受け身の姿勢ではなく) <u>教員や他のゼミ生と能動的にコミュニケーションを取ろうとする人</u> / 自分の過去・現在・未来に向き合い、今後のキャリアを考えたい人 / 働くことなどの社会生活に疑問や興味がある人 / 日常生活での選択について理解を深めたい人...など。</p> <p>・「心理データ処理演習」や「多変量解析」などを受講し、必要な統計的スキルを身につけようとすることを望みます。</p>			